

芦浦観音寺重要文化財阿弥陀堂・書院 クラウドファンディング

芦浦観音寺(芦浦町)の境内にある重要文化財の観音寺阿弥陀堂と同書院は、前回の屋根葺替から40年以上が経過し、劣化が激しい状態です。修復には多額の経費がかかります。大切な地域の宝を守り伝えるため、クラウドファンディングによる支援を受け付けています。詳しくは、11月から公開のホームページをご覧ください。皆様のご支援をお願いします。

問 芦浦観音寺阿弥陀堂・書院を守る会(芦浦町)
 ✉ashiurakannonji@gmail.com
 歴史文化財課(6階) ☎561-2429、FAX561-2488



詳しくはこちら



KUSATSU 歴史ギャラリー

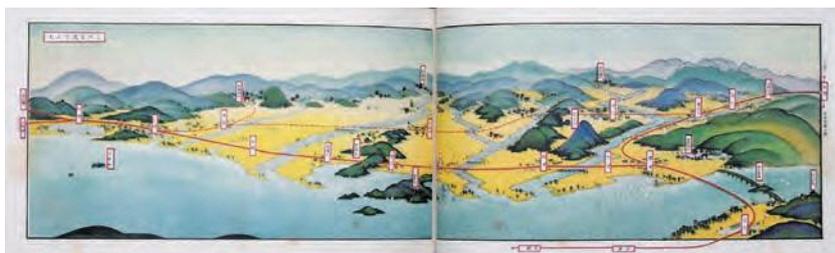
『鉄道旅行案内』—「大正の広重」が描く近江— No.168

明治時代を迎え、西洋のさまざまな文化や技術が日本にもたらされますが、その中でも画期的だったのが、鉄道です。明治5(1872)年に日本初の鉄道が開通して以降、鉄道網は日本全国に広がっていきとともに、鉄道を使った旅も一般的なものとなっていきます。『鉄道旅行案内』は、大正10(1921)年に鉄道省より発行された旅行案内書です。全国の国有路線の沿線案内で、運賃などの各路線の紹介とともに、沿線の名所などが掲載されていますが、その中でも特徴的なのが鮮やかに彩色された鳥瞰図です。巻頭の例言でも、「汽車の窓から見ゆる景観図は、新たな試みとして、本年始めて挿入したもの」とあり、当時としても珍しいものであったことが分かります。

この鳥瞰図を描いたのは、大正から昭和にかけて活躍した画家、吉田初三郎(1884~1955年)です。多くの鳥瞰図を描いた初三郎は「大正の広重」と呼ばれ、人気を博しました。初三郎は、鳥瞰図を描くにあたって、事前にその土地の歴史などを調べ、現地まで行き、大量のスケッチをしたといわれています。初三郎の美しい鳥瞰図の秘密は、その綿密な事前取材にあったのかもしれませんが。

「大津」のページには、二つの鳥瞰図が掲載されており、一つは琵琶湖の東側を描いたもの、もう一つは琵琶湖の西側を描いたものです。草津が含まれる東側の鳥瞰図には、赤い実線で国有鉄道の路線が描かれ、点線で近江鉄道の路線が示されています。草津周辺の湖上には、いくつかの船が描かれており、常夜燈らしきものが確認できる、少し飛び出した部分がかつて江戸時代に「矢橋の渡し」として栄えた矢橋港です。

この『鉄道旅行案内』は開催中の草津宿街道交流館秋季テーマ展「描かれた旅慕情—絵図から見る旅と観光—」で展示しています。ぜひ「大正の広重」の鳥瞰図をご覧ください。



▲鉄道省編・吉田初三郎画『鉄道旅行案内』(草津市蔵)

問 草津宿街道交流館(草津三) ☎567-0030、FAX567-0031

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふえむ草津 (FM78.5MHz) 「声の広報」

スマートフォン用アプリ



- マチイロ
- SideBooks (ちいき本棚)

草津市メール配信サービス

市の情報をメールで配信するサービス



市公式ソーシャルメディア!



イベントや市政情報、窓口の混雑状況、災害時の緊急情報などを配信!



くさつチャンネル

さまざまな動画を配信。びわ湖放送(BBC)で放送されている草津スケッチもこちらから!



市の花 アオバナ



市の木 キンモクセイ

9月30日現在(対前月比)

- 人口137,266人(+60)
- 世帯数61,426世帯(-11)
- 男68,828人(+28)
- 女68,438人(+32)